甲全第70号証

「核燃再処理撤退」02年一致

東電・経産 首脳協議

六ケ所施設 建設費膨らみ

核燃サイクルを巡り、東京電力と経済産業省の双方の首脳が02年、青森県六ケ所村の使用済み核燃料再処理事業からの撤退について極秘で協議していたことが関係者の証言などで分かった。トラブルの続発や2兆円超に建設費が膨らんだことを受け、東電の荒木浩会長、南直哉社長、勝俣恒久副社長と経産省の広瀬勝貞事務次官（いずれも当時）らが撤退の方向で検討することで合意し、再協議することを決めた。しかし3カ月後、東京電力トラブル隠しが発覚し、荒木、南両氏が引責辞任したことから実現しなかったという。（22面に解説）

会長辞任で白紙

毎日新聞は出席者の氏名や協議の時期、目的などが書かれた経産省関係者のメモを入手し、協議の関係者からの証言も得た。首脳による協議が判明したのは初めて。核燃サイクルを巡っては高速増殖原型炉「もんじゅ」の廃炉を含め継続の可否が検討される見通しで、サイクルのもうひとつの柱である再処理事業でも東電、経産省のトップが9年も前から「撤退を検討すべきだ」と認識していたことは、内閣府の原子力委員会が来年夏をめどに進める原子力政策の見直し作業に影響しそうだ。

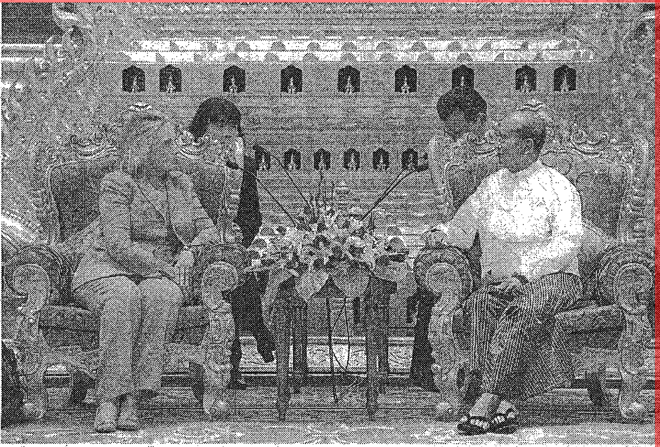
メモや関係者によると、協議は経産省側が「六ケ所村（再処理工場）はいろいろ問題があるようだから首脳で集まろう」と呼びかけて実現し、02年5月ごろ、東京都内のホテルの個室で行われた。首脳らは「撤退の方向で検討に入る」との意見で一致し、具体的な進め方を再協議することを決めた。さらにその後、撤退する際に青森県側への説明役を務める東電担当役員も決定したという。

六ケ所村再処理工場の建設費は事業申請時（89年）は7600億円。しかし使用済み核燃料貯蔵用プールからの漏水が相次ぐなどトラブルが続発し、2兆円を超えることが確実になっていた。本格操業すると将来の解体費用などとしてさらに1兆円以上必要になる。東電など複数の電力会社幹部から「こんなの（再処理事業を）やっても大丈夫なのか」と懸念の声が上がっていたため、経産省側が協議の場を設けたという。しかし02年8月、部品のひび割れなどを隠蔽した東電トラブル隠しが発覚し荒木、南両氏が辞任、再協議は実現しなかった。

荒木氏（現東電社友）は「記憶が不確か」として取材を拒否。南氏（現顧問）は協議について「記憶にない」とする一方「当時、経産省との間で再処理をやめられないか相談が行われており、荒木氏や勝俣氏と議論した」と明かした。勝俣氏（現会長）も協議の有無には答えなかったが「再処理をやるかやらないか5回ぐらい社内で経営会議を開いた」と述べた。広瀬氏は「まったく記憶にない」と話した。【核燃サイクル取材班】

📖 **六ケ所村の再処理工場**

使用済み核燃料から再利用可能なウランとプルトニウムを取り出す工場。東京電力の連結対象会社「日本原燃」（青森県六ケ所村）が建設・運営している。極秘協議があった02年当時、工場に放射性物質は流れていなかったが、04年に劣化ウランを流すウラン試験、06年に使用済み核燃料を流すアクティブ試験に移行。高レベル廃液をガラスで固める工程でトラブルが発生し08年12月以降、試験は中断している。完成予定時期は18回延期され現在は来年10月。



1日、ネピドーの大統領府で会談するクリントン米国務長官（左）とテインセイン・ミャンマー大統領＝ロイター

ミャンマー大統領と会談

米国務長官 スーチーさんとも会食

【ネピドー西尾英之】米国務長官として56年ぶりにミャンマーを公式訪問したクリントン国務長官は1日、首都ネピドーの大統領府でテインセイン大統領と会談した。3月の民政移管で就任した大統領の民主化策に「勇気づけられる」と評価する一方で、両国関係改善の突破口とするには「（改革が）不十分」とし、全政治囚の釈放や戦闘が続く少数民族組織との和平実現など、より一層の努力を求めた。（3面にクローズアップ）

会談後、記者会見したクリントン長官は「（テインセイン大統領が）さらに幅広く改革に取り組むと約束した」と満足感を表明。ミャンマーが北朝鮮の技術支援を受けて核兵器開発を図ったとの疑惑に懸念を表明しつつ「大統領から（北朝鮮からの武器輸入を禁じた）国連決議を順守するとの保証を得た」と明らかにした。ただ、ミャンマーが強く解除を求める、米国の経済制裁措置については「対応を慎重に検討していく」と述べ、時期尚早だと強調した。

クリントン氏は会談後、ヤンゴンに移動し、1日夜に民主化運動指導者、アウンサンスーチーさんと夕食を取りながら会談。「米国はずっとあなたを支える」などと記されたオバマ米大統領からの親書を手渡したとみられる。

「横浜DeNA」誕生

プロ野球 オーナー会議承認

プロ野球のオーナー会議が1日、東京都内のホテルで開かれ、携帯電話ゲームサイト「モバゲー」運営会社の「ディー・エヌ・エー」（DeNA）が、TBSホールディングス（TBSHD）から横浜ベイスターズを買収することを承認した。この結果、新球団名「横浜DeNAベイスターズ」の誕生が、正式に決まった。プロ野球球団の経営権譲渡は、04年オフに福岡ダイエーホークスがソフトバンクに譲渡されて以来。（スポーツ面に関連記事）

オーナー会議ではDeNAの運営サイトの不健全さなどを指摘してきた楽天が反対したが、残りの11球団が賛成。野球協約で球団譲渡承認に必要とされる4分の3以上の同意が得られた。買収額は日本野球機構（NPB）への預かり保証金など30億円を含めて95億円。株式譲渡後の株保有割合はDeNAが全体の66・92％で筆頭株主となる。【高橋秀明】

重みと責任感じる

DeNA・春田真会長の話　安堵（あんど）とともに球団を持つ重みと責任を感じる。DeNAが入って良かった、と言ってもらえるようにしたい。

首相

一体改革 年内に大綱

は「なるべく明示したい」と述べるにとどめた。（2面に関連記事、5面に首相会見要旨）

首相は一体改革の大

議員の）定数削減もしないといけない。特別会計法の改正案も来年の通常国会に提出する予定だ」と語り、理解

に関し、積極的に情報を開示していく考えを示した。

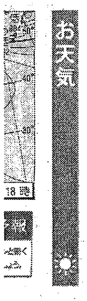
首相は前沖縄防衛局長の不適切発言につい

余録

「根深（ねぶか）雑炊（ぞうすい）生姜（しょうが）酒」は体るものを並べた昔のことわざ深雑炊は主にみそ仕立ての炊、生姜酒はすり下ろしたシを熱燗（あつかん）に入れて作った。すきま風が吹る寒夜、体そのもので暖をとるのが手早かった昔だ▲ショウガは生姜酒だく、下ろしたものに砂糖を加えて熱湯だ生姜湯も冬の俳句の季語になってい姜湯に顔しかめけり風邪の神」は虚子風味付けにミカンの皮を加えたりしたの民間療法では葛湯（くずゆ）にショウガを加えも用いられる▲一方、ネギをはじめ大ボウ、白菜、ホウレンソウなども寒く甘みを増し、食べると体を温かくするれる冬野菜である。甘くなるのは凍結るために糖度を増すからだという。む接体を温める鍋や雑炊の材料として、に欠かせない▲師走の声を聞いて急に配が濃くなった列島である。きのうは縄を除く全国9電力管内で政府による電要請が始まった。今夏のような法律づく使用制限令は避けられたが、夜間需要があまり減らず、ピークは朝夕2という冬場だ▲先月の暖かさでつまずいよいよ本番だ。とともに今年は「食料品のウォームビズ商戦も節電の冬をームビズ」なるキャッチフレーズもあで聞く。ショウガなどを材料にして「まる」とうたう食品や料理、飲料の売も盛んなのだ▲この節電も体の内側かる冬の楽しみの再発見のチャンスだ。炊の新レシピもいろいろ生まれるといくれぐれもお酒はほどほどに。

流行語大賞は「なでしこジャパン」

お天気



明日公開　第42回 東京モーターショー2011
「トミカ」西3ホールコーナーへGO!
開催記念トミカをゲットしよう!
詳細は下記HPでも公開!
http://www.takaratomy.co.jp/event/
© TOMY

素敵な街の見分け方。
それは、道ゆく人の笑顔です。